

(振興局調整費)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉環境 部	南園智人	環境指導 課	環境・食品 衛生班	野村 修	0182-4 5-6139	食品衛生啓発事業	・ノロウイルス等の感染症を未然に防ぐことを目的に一般消費者に対する衛生に関する正しい知識を普及・啓発するため、体験型の食品衛生啓発事業を実施する。	152,009	直営	・「夏休み親子で参加食品衛生体験学習」の開催 開催時期:平成26年8月 会場:秋田ふるさと村内	県、横手食品衛生協会	管内住民	平成26年4月1日	・参加者に対するアンケート調査を行った結果、手洗いの汚れを数値や目で確認できる体験ができたという意見が多く得られたことから、正しい手洗いの動機付けに役立った。	・より多くの人の来場を確保するためには、様々なイベントに付随した形での実施などの工夫が必要である。
						平成26年7月～平成26年9月	・今後は管内の児童・生徒に手洗い体験を経験してもらうため、幼・保育園、小中学校の施設での個別開催を増やしていく。								
総務企画 部	米澤輝夫	地域企画 課	地域振興 班	高山好美	0182-3 2-0594	道の駅交流物産展支援事業	・秋田・岩手両県の県南地域の観光物産資源を県内外にアピールするため、観光物産の拠点となる道の駅相互による交流物産展を開催する。 ・食文化・特産品の異なる他地域と連携し開催することにより、多様な魅力を持つイベントとして、特産品のPRに留まらず、今後の交流人口拡大にも資する取組に位置づけている。	210,830	直営	道の駅交流物産展の開催(秋田県開催分) ・各道の駅(さんない、十文字、おがち)にて計3回の開催	県、道の駅さんない、おがち、十文字、さんりく、遠野風の丘、錦秋湖、あら伊達な道の駅	管内住民	平成26年4月1日	・道の駅では、管内の農家や食品事業者の商品を多く扱っており、道の駅の売上が地域経済に与える影響は大きい。県内外に向けたPRの場として交流物産展を行うことで、多くの人の目に触れることにより、商品認知度の向上、販売促進に繋がっている。	・各道の駅で開催される「道の駅交流物産展」は道の駅主体での物産展実施の体制が整ってきているが、開催要領の作成、開催日程調整については県が主導で進めるほか、県のHPを利用した宣伝等を行い引き続き支援していく。一大商圏である仙台圏近郊の道の駅を増やすなど、PRの場を拡げ観光誘客促進及び物産の販売促進に繋がるよう検討する。
						平成26年8月～11月									
福祉環境 部	南園智人	健康・予防 課	健康・予防 班	佐藤まゆみ	0182-3 2-4006	在宅高齢者低栄養予防事業	横手市では全国と比較して脳内出血による死亡率が高い状況であり、その要因の一つとして高齢者の低栄養状態が挙げられる。現在、市では高齢者の食習慣の実態が把握されていないことから調査を行い、合わせて低栄養を予防するための知識の普及を実施することで現状の把握と今後の取組の一助となることを目指す。	184,551	直営	・簡易型自記式食事履歴質問票を用いた高齢者の食習慣状況の調査 参加者:116名 ・低栄養予防講座の実施 実施回数:10回	県	横手市社会福祉協議会事業「自立支援通所事業」利用者	平成25年4月1日	・食習慣調査から野菜や魚は比較的摂取できているものの動物性タンパク質、脂質の摂取量が少ない傾向であることが分かった。調査結果は面接しながら個別に返却した理由で、不足となっている理由も把握できた。	・健康長寿の実現は、高齢期になってからの取組だけでなく、生涯を通じた健康づくりの一環としての取組が必要である。そこで、地域の健康づくり事業の推進体制を強化するため、横手市健康推進課、健康の駅、地域包括センター等の行政の連携をさらに強め、各種事業の見直しを図ると共に効果的な健康教育媒体を制作することを予定している。
						平成26年9月～27年2月	・出前講座では実例を挙げて説明したので、参加者は自分の生活と重ね合わせ、できることから実践していこうという感想があった。								

(振興局調整費)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	米澤輝夫	地域企画課	地域振興班	高橋浩人	0182-32-0594	JR北上線利用促進事業	JR北上線の利用状況低迷を背景に、今年7月、JR北上線利用促進協議会が設立された。北上線の置かれている現状を沿線住民や関係機関に周知するとともに利用促進に向けた機運醸成を図ることを目的として、臨時列車を会場としたシンポジウムを開催する。	64,800	直営	シンポジウムの開催 時期： 平成26年10月開催 場所： 北上駅～横手駅間の臨時列車内 内容： JR職員による講演 地元高校生によるワークショップ	JR北上線利用促進協議会	JR北上線の利用者及び関係者	平成26年4月1日	臨時列車を会場としたことにより、マスコミや沿線住民に対して、多くの注目を集めた。 開催の結果、利用促進に向けてのきっかけとなった。	・ワークショップの実施により多くのアイデアが出されたので、実現の可能性について検討を進めるとともに来年度以降の施策展開に活用する。
						平成26年9月～11月	平成27年10月31日								
総務企画部	米澤輝夫	地域企画課	地域振興班	高橋浩人	0182-32-0594	未来づくり協働プログラム調査事業	横手市の未来づくり協働プログラムの基本構想では、増田まんが美術館を原画の収蔵・展示に重点を置いた新しいコンセプトの美術館に改修するほか、重要伝統的建造物群保存地区に選定された増田の町並みとの連携により交流人口の拡大を図ることとしている。	246,350	直営	現地調査の実施 期日： 平成27年3月 場所： 京都国際まんがミュージアム、手塚治虫記念館ほか	県	横手市	平成26年4月1日	いずれの施設においても来場者を増やす取組や海外からの誘客を増やす取組を積極的に行っており、今後の事業化に向けて参考になる事例を得ることができた。	27年度以降、市の未来づくりプログラムの詳細を検討していく必要があることから、今回の現地調査で得られた取組や情報をプログラムに具体的に反映させていくこととする。
						平成27年3月	平成27年10月31日								